自ら学び・ともに学ぶ力の育成
－実践的な態度を育てる学習指導の工夫－

技術・家庭科　伊藤秀哲　戸田淳子

1　研究テーマ設定の趣旨

技術・家庭科では，「生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して，生活と技術のかかわりについて理解を深め，進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。」ことを目標としている。本校では，従来から教科の目標を達成するため，実践的・体験的学習および問題解決的な学習の工夫をはかってきた。平成１７年度からは，コミュニケーションする力を活用して，「自ら学ぶ力」と「ともに学ぶ力」を育成することで，問題解決能力を高めることを研究している。

「自ら学ぶ力」とは，実践的・体験的学習および問題解決的な学習の課題設定や解決・検証，反省などの場面で主体的に活動する力であり，「ともに学ぶ力」とは，グループ活動における他者との話し合いや協力する活動の中で客観的に思考・判断する力や協調する態度である。これらの力を育成する際，コミュニケーションする力を活用する場を意図的に取り入れることで，活動を円滑に進めることができたり，自他のよさを認め合ったりすることができ，学習意欲や効果の向上につながると考えた。

以上のようなことから，コミュニケーションする力を活用しながら自ら学ぶ活動やともに学ぶ活動を工夫することで，教科の目標にせまっていこうと考え，「自ら学び・ともに学ぶ力の育成－実践的な態度を育てる学習指導の工夫－」を研究テーマとして設定した。

2　研究概要

昨年度の研究では，本教科における問題解決的な学習と「自ら学び・ともに学ぶ力」の関係を明らかにし，コミュニケーションする力を活用した授業改善の手だてを探っていった。

図１は，問題解決的な学習と「自ら学び・ともに学ぶ力」の関係を示している。問題解決的な学習における一連の活動（課題設定・探索，解決・検証，反省・自己評価）を行う際，コミュニケーションする力を活用しながら「自ら学ぶ力」と「ともに学ぶ力」を育成することで，教科の目標となる「工夫し創造する能力」や「実践的な態度」を育てることを表している。

「自ら学ぶ力」は問題解決的な学習において主体的に活動する力であり，コミュニケーションの知識・技能として「自分の思いや考えを的確に表現する力」「他者からの情報を正確に理解したり，込められた意図を理解する力」「話し合いを円滑に進める力」を活用させながら育成していくことを考えた。また，「ともに学ぶ力」は客観的に思考・判断する力や協調する態度であり，コミュニケーションへの関心・意欲・態度として「他者とのかかわりへの関心」「コミュニケーションしようとする意欲」「互いの個性を尊重し合う態度」「合意形成しようとする態度」を活用させながら育成していくことを考えた。

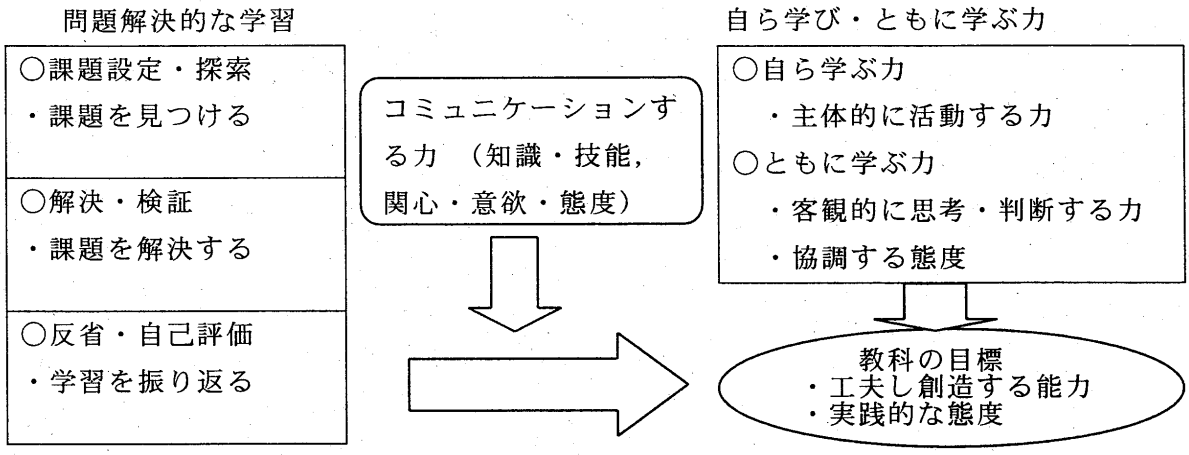


図１　技術・家庭科における問題解決的な学習と「自ら学び・ともに学ぶ力」の関係

コミュニケーションする力を活用するためには，実践的・体験的な学習の中で，コミュニケーションの場の設定と指導内容の工夫が必要である。

まずコミュニケーションの場は，グループ活動で他者と関わったり，情報の交換をする場面で設定し，「他者からの意見・情報を理解する」「自分自身の思いや考えを自由に表現する」「話し合いを円滑にする」などのコミュニケーションする力を意図的に活用させるようにした。また，問題解決的な学習の過程で調査・研究や問題の考え方・解決の仕方等の話し合いをする場面においても，意見の調整や考えの練り上げのために，コミュニケーションする力を活用させるようにした。このような場を設定し活動させることで，他人を認めたり，自分のよさを認識したりすることができ，学習意欲の向上につながると考えた。さらに，他者から認められることで，工夫し創造する楽しさを実感できるようになるだけでなく，協調する態度や実践する態度の育成に有効にはたらくと考えた。

次に，授業改善の具体的な手だてとしては，学習の目標を明らかにすることや他者との話し合いや協力などの場を設定すること，客観的な自己評価・相互評価のための評価の工夫をすることが必要であると考え，教材・教具や学習指導を工夫した。また，選択授業など発展的な内容の指導では，Ｔ・Ｔの活用などで学習指導の充実をはかることも考えた。

３　研究内容

本年度は，昨年度までの研究をもとにコミュニケーションする力を活用する場の設定のしかたやグループ活動の進め方について修正・改善をすることで「自ら学び・ともに学ぶ力」の育成をはかるとともに，実践力を育てていこうと考えた。

例えば，生活をよりよくするための観点として「誰のために」「どんな方法で」「何をどのように使って」「何を作り上げるか」などを具体的に考えることが必要であることを示し，生活に活かすことを意識させた。また，コミュニケーションする力を活用する際，教師と生徒のかかわり，生徒と生徒のかかわり，生徒と家族や社会とのかかわりを意識させる学習内容の工夫をする。さらに，グループ活動で，一人一人の持っている力を出し合い，その力をいかして，よりよいものが作れるようにさせる工夫をする。

これらのことを実践的・体験的な学習の中で実践することで，生徒の学習や生活への関

心・意欲を高め，学習したことを生活へいかす実践力を育てていきたいと考えた。
そのために，以下のような内容について具体的に研究を進めることにした。

(1) 実践的・体験的な学習での目標の明確化とコミュニケーションの場の設定

はじめに，生徒の興味・関心の内容や実態を把握してから，学習したことが実践に結びつけやすい題材を取り上げるようにした。実践的・体験的な学習および問題解決的な学習の課題設定や課題探索時には，学習への関心・意欲を高めるため，授業のはじめに学習目標と具体的な活動内容や指標を示し，各自の学習活動の目標を明らかにさせた。その際，「誰のためにという対象者を考えさせる」「何を使ってという道具や材料を考えさせる」「どのようにしてという方法を考えさせる」「最終的にどうなるかという目標や結果の予測をさせる」など，より具体的に話し合わせるようにした。このようなグループでの話し合いや教師からの問答やアドバイスなど，コミュニケーションする場を意図的に設けることで，「自ら学ぶ力」にかかわる主体的に活動する力の育成をはかれるようにした。

(2) 人とのかかわりや情報の交換のためのグループ活動の工夫

製作や実習におけるグループ活動を通して実践的態度を育てるため，コミュニケーションする力の話し合いの技能を使って，自己の意思をはっきりさせ，他者の意見を聞くことで他者との協調する態度の育成をはかろうと考えた。問題解決的な学習の中で，生徒と教師の問答や生徒同士の話し合い，互いに協力し合うことは，より実践的な解決の仕方を考えさせるために必要である。実際の行動では，生徒と教師，生徒同士，生徒と家族とのコミュニケーションをはかれるようにする。特に，実習や製作では，言葉や図で書かれたことだけでなく，実習や製作の過程でのやりとりの中で，感覚（見る，触る，味わう，嗅ぐなど）で見取ることも技術・家庭科でのコミュニケーションとして加味して評価にもいかす。例えば，生徒と生徒との「どうしようか」「これでいいかな」「できた，やったね」などの次の活動にはいるための質問，手順や知識の確認，結果に対する賞賛の言葉は，生徒のその場の活動に対する関心・意欲を高める。生徒と教師の「これでいいんだよ」「じょうずによくできたね」「ここを直すといいね」などの活動手順の確認，その場の評価，認めほめることは，次の活動への意欲を高め，技能の向上にもつなげられる。

また，知識・技能の補い合いがはかれるような話し合いが深まる教材やコミュニケーションしやすいグループの組み方，教材・教具の内容や提示の仕方を工夫した。グループ活動では，活動の内容により２から６人のグループを組み，会話することや作業を分担すること，協力して用具を使うことや作業をすることをさせる。グループ活動での計画・実習・反省時の会話は，手順を確認していたり，必要な情報を共有したり，次の活動のための合意を形成するために行っており，一人ではできなかったことがグループで行うことにより可能となり，「ともに学ぶ」ことから生活への実践へとつなげることができると考えられる。

(3) 客観的な自己評価・相互評価のための評価の工夫

実践的・体験的な学習における反省・評価のときに，場の設定や主体的に活用できる力を育てるための客観的な自己評価・相互評価の方法を工夫する。自己評価では，生徒が過小評価や過大評価してしまうことがあるので，客観的な自己評価能力を育成するために，

目標への到達状況，相互評価による他の意見と比較して客観的に自己評価することを意識させ，メモをとらせることや自分の言葉で反省を記入することをさせる。実際の評価では，活動の過程も大切にして，計画・実行・反省の活動記録をその時々に記入させ，授業前の実態調査との比較により意識の変容や技能の向上をみる。また，自己評価や相互評価での具体的な項目を生徒に示す時に，活動内容や考えたこと，わかったことなどを具体的に言葉で記入させることで，授業内容の関心と次の活動への意欲を読み取る。

4　実践例

実践例（技術分野）

題材名「生活に役立つものの製作」（A　技術とものづくり）における実践例を示す。

1　技術分野におけるコミュニケーションする力の活用

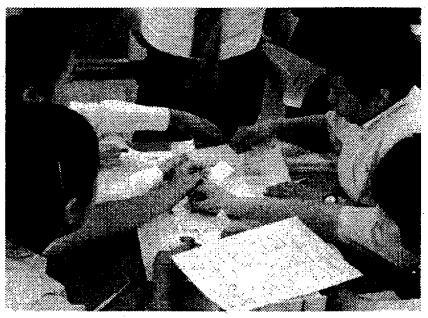
本校の生徒に「ものづくり」についてのアンケート調査を行ったところ，「ものづくりに興味がある（好き）」と回答した生徒は８割以上であり，興味・関心の高さがうかがえた。その一方，「興味がない（嫌い）」と回答した生徒や「好き」と回答した生徒の一部では，「いろいろなものを工夫したり考えたりするのが苦手」「設計することが苦手」というものがあり，自分で工夫したり，アイデアを具体化したりすることに少なからず苦手意識を持っていることが分かった。また，ものをつくるときの考える手段について質問したところ，一番多かったのは「なるべく自分で考える」であったが，「家族や仲間など，他の人の意見やアドバイスを参考にして考える」が次いで多く，学習を進める上でコミュニケーション活動が有効にはたらくのではないかと考えられた。

そこで本題材では，材料の特徴や利用法をふまえた上で，生徒の創意工夫を生かしたオリジナル作品を製作する問題解決的な学習の中に、コミュニケーションする場やグループ活動を設定することで、「自ら学び・ともに学ぶ」力を育成していくことにした。

授業においては，**製作品の模型や実験用材料などの教材・教具を利用**し，実践的・体験的な活動から知識や技能を習得させるようにする。また生徒の実態をふまえ，**設計の段階で生徒と家族，生徒同士の話し合いの機会をつくったり，実験や製作においてグループで協力しながら作業させたりするなど，コミュニケーションする力を活用**させながら，意欲の向上をはかるとともに，生活に生かす実践力を養っていくようにした。

2　授業改善の手だて

授業改善の手だてとして、以下のようなポイントを置き、授業を展開した。



(1) 学習過程における手だて

※　実践的な態度を育成するために考えた展開

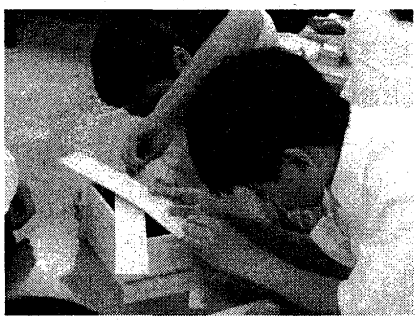
◎製作品の構造をじょうぶにする方法を自分自身で考えさせ，グループで検証することにより実感を伴いながら構造の工夫についての知識を習得させ，製作品の設計

に活用できるようにする。

※　実生活での問題や実際に行うことができる課題

○製作品の基本形となるようなラックの模型を利用し，自分の製作品との関連性を意識させる。

○身のまわりでも同じような構造の工夫がされていることを実物の写真を示すことで確認させる。



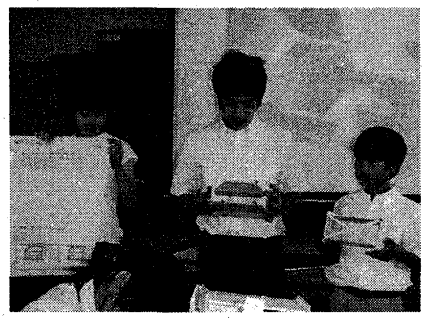
(2) 展開における手だて

※　導入

○動機付け　問題提示を行い，本時の内容への動機付けを行う。

※　意欲付け・目標の共有（生徒と生徒，生徒と教師が目標を共有し一緒に頑張る）

○ルーブリックの活用



※　コミュニケーションする力の活用

○グループで情報交換できる場の設定

○グループでの実践的・体験的な学習

○見本を使い，根拠を示しながら話す場の設定

※　評価の工夫

○ルーブリック（自己評価）

具体的評価指標【ルーブリック】	評価
A　構造をじょうぶにする方法を，自分で３つ以上考えることができた。 B　構造をじょうぶにする方法を，自分で２つ考えることができた。 C　構造をじょうぶにする方法を，話し合いから２つ考えることができた。	

3　指導案例

(1) 題目　　構造をじょうぶにする工夫をしよう

(2) 目標　　製作品の構造をじょうぶにする方法を工夫し，製作品の設計に活用できるようにする。

(3) 具体目標と評価の方法

具　体　目　標	評価の方法
①構造をじょうぶにする工夫をすることができる。（工夫・創造）	観察，学習プリント
②製作品の構造をじょうぶにする方法を説明できる。	観察，発表
（知識・理解）	学習プリント

(4) 指導方針と研究テーマとの関連

生徒は，材料（木材）の特徴について感覚的にわかっているが，設計にどのように生かせばいいのかは十分に理解していないと考えられる。そこで，指導にあたっては，製作品の基本形となるような模型教具を利用した実践的・体験的な活動を通して，材料や構造についての知識を身に付け，設計や材料取りに生かす実践的な態度を育てられるような学習を展開していきたい。活動はグループで進めさせ，問題解決の方法を話し合わせたり，検証結果について発表させたりするなどして，コミュニケーションする力の活用させていきたい。また，作業前には具体的評価指標を示して，生徒が目標を持って意欲的に取り組めるようにしたい。

(5) 展開

「生活に役立つものの製作」－構造をじょうぶにする工夫をしよう－

※研究テーマとの関連　　◇評価

学習の流れ	時間	指導上の留意点	教具・資料
前時までの復習	3	・前時までの内容について確認し，本時への動機付けをする。	ラック模型
学習内容の提示	2	構造をじょうぶにする工夫をしよう ・構造をじょうぶにすることの必要性を知らせる。	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ プリント ラック模型
検証方法の説明	5	構造をじょうぶにする方法を考えよう ・模型を補強する材料の使い方，話し合いの進め方について知らせる。 ・「一番安定する方法」「少ない材料でも安定する方法」をグループで検証することを知らせる。 ※意欲付け・目標の共有（ルーブリック）	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ プリント ラック模型
じょうぶにする方法の検証 補説 ①作業	２０	・構造をじょうぶにする方法について，各自の予想をカードに記入させてから話し合いをさせる。 ・話し合いをもとに，いろいろな補強方法を検証させる。 ◇構造をじょうぶにする方法を考えることができたか。 ※コミュニケーションする力の活用 （情報交換のためのグループ活動） （グループでの実践的・体験的な学習）	カード プリント ラック模型 工作用紙 プッシュピン はさみ カッター
じょうぶにする方法のまとめ ②発表 補説	１２	・検証した結果をまとめ，「一番安定する方法」「少ない材料でも安定する方法」をもとに製作した模型を提示しながら，グループごとに発表させる。 ◇構造をじょうぶにする方法を説明ができたか。 ※コミュニケーションする力の活用 （見本を使い，根拠を示しながら話す）	ラック模型 プリント
身近なものの構造の工夫	3	・身近にある製品や建築物の構造の工夫について紹介し，関連性があることを知らせる。	コンピュータ
自己評価	3	・自己評価させる。 ※評価の工夫（ルーブリック）	プリント
本時のまとめと次時の予告	2	・本時のまとめと次時の内容を知らせる。	

実践例（家庭分野）

題材名「家庭と家族関係」（B 家族と家庭生活）

－家族関係をよりよくする方法を考えよう－

1　家庭分野におけるコミュニケーションする力の活用

人とのかかわりや情報の交換のために，製作や実習におけるグループ活動を通して，自己の意思をはっきりさせ，他者の意見を聞くことで他者との協調する態度の育成をはかろうと考えた。グループ活動では，活動の内容により人数の調整をし，必要な情報の共有や活動のための合意形成により，一人ではできなかったことがグループで行うことにより可能となり，「ともに学ぶ」ことから生活への実践へとつなげることができると考えられる。そこで，知識・技能の補い合いがはかれるような話し合いが深まる教材やコミュニケーションしやすいグループの組み方，教材・教具の内容や提示の仕方を工夫した。

2　授業改善の手だて

「家庭と家族関係」の学習では，現在の多様な家族関係や家族を含めた人間関係の希薄化などから，家族関係に関する望ましい姿をとらえることが難しい。家族の問題を考え解決するには，家族の協力はもちろん，家族と地域社会とのかかわりを考えることも必要となる。そこで，現在の生活の中から家族と家庭生活について見直させ，家族や地域とのかかわりの大切さを意識させて実践へと結びつけさせる。ここでは，生徒の生活にかかわりの深い内容で取り上げ問題点を挙げて改善策を考えさせ，よりよい家族の関係についてのロールプレイングの活動等を通して具体的に考えさせる。

3 指導案例

○指導区分（家庭分野：3 学年 17,5／総時数 87,5 時間）

・B(3)ア・家庭と家族関係　　4 時間

・自分まわりの家族と家庭のはたらきを知ろう　　1 時間

・家庭や家族の基本的な機能を知ろう　　1 時間

・自分と家族の関係を考えよう　　1 時間

・家族関係をよりよくする方法を考えよう　　1 時間（本時）

○本時の指導

（1）題 目　　家族関係をよりよくする方法を考えよう

—家族とのコミュニケーションを考えよう—

（2）目 標　　家庭や家族の機能が有効に働くために，家族関係を協力してよりよくするための方法を具体的に考え，家族の互いの立場や役割を理解させ，実践に結び付ける意欲をもたせる。

（3）生徒の実態と本時の指導方針

中学 3 年生の生活をみると進学に向けての受験勉強や部活動，習い事などの趣味に時間をとられ，家族の一員としての仕事をする時間や家族とのふれあいや会話の時間をつくることがむずかしい。しかし，家庭生活は，家族の協力とお互いを尊重し協力することで，家族一人ひとりの生活が潤い，生活の向上が図れるものと考える。そこで，家族のとらえ方や家族の協力について，誰のために，どんな方法で，いつ，何を，どのように行動したらよいかを具体的に考えさせる。

（4）具体目標と評価の方法

具体目標	評価の方法
①家族とのコミュニケーションのロールプレイングで，言葉かけや接し方を具体的に考え内容を工夫することができる。（工夫・創造） ②グループでの話し合いから，家族との関係をよりよくする方法を知り，家族とのコミュニケーションへの意欲をもつ。（関心・意欲）	・ワークシート ・発表 ・ワークシート ・観察

（5） 展 開

「家族関係をよりよくする方法を考えよう－家族とのコミュニケーションを考えよう－ 」（4／4）

※ 研究テーマとの関連　◇　評価

学習の流れ	時間	指 導 上 の 留 意 点	教具・資料
学習内容の提示	2	・「家族関係をよりよくする方法を考えよう―家族とのコミュニケーションを考えよう―」を学習することを知らせる。	ワークシート
家族の立場と役割	3	・実際の家族の立場や役割，家族の年齢や生活の特徴に応じた内容を考えさせる。	役割カード
家族関係でのロールプレイング	15	・４人のグループで場面や人物設定，会話をもとに内容を工夫させる。 ・勉強しないで遊んでいたとき ・きょうだいと比べられるとき ・遊んでいて帰りが遅くなったとき ・親が昔の自分と比べるとき ・会話が少なくなったとき ・もっとがんばれと言われるとき　など	記入カード
補 説			ワークシート
発 表 ①	10	・グループの中で演じて，やる気にさせる言葉や言われて嫌なことば，感じたことを話し合わせる。 ・演じてみて，立場の違いでの気持ちや気付いたことを発表させる。 ※コミュニケーションする能力の活用（人とのかかわりの仕方を工夫する） ◇家族の特性に応じた話しかけや接し方を具体的に考えている。	資料 家族の変化 生活時間の見直し
家庭と家族関係	5	・家族の変化や男女の協力，生活時間について資料をもとに説明する。	ワークシート
家族とのコミュニケーションを考える	10	・家族との時間の設定や場所，コミュニケーションの内容を具体的に考えられるようにする。 ・誰と，いつ，何をするかを具体的に考える。 ・場所や時間の設定を考える。 ・自分が直すところ，相手にこうしてほしいことの内容を考える。	
ワークシート ②	5	・家族の一員としての自分の生活を見直して，よりよい家族の関係を考えさせる。 ◇自分の生活で上手にコミュニケーションをして家族との関係をよいものにしようとする。 ※コミュニケーションする能力の活用（コミュニケーションすることへの意欲をもつ）	
本時のまとめ 次 時 の 予 告		・本時の活動のまとめと家族とのコミュニケーションへの意欲づけをする。	

4 授業実践から

（1）家族関係を考えるにあたって

ア 事前調査「日常生活の自分と家族の関係を考えよう」

・家族との会話で：いやだと思うこと・うれしかたこと・関係で考えたい場面や人について

〈 調査から 〉「いやだと思うこと」：兄弟で比べられること，好きなことを否定されること，
文句を言われること，命令されること，部活動や勉強のことを言われるとき，
会話が少なくなったとき，もっとがんばれと言われたときなど

「うれしかたこと」：勉強などでよくできたとほめられたとき，
自分の考えが伝わったとき，‘ありがとう’といわれるとき，手伝いができたとき など

「考えたい場面」：兄弟けんかしているとき，勉強でしかられたとき，
帰りが遅くなったとき，仲良くしているとき，団欒しているとき など

イ「自分と家族の生活時間の見直し」・・・家族の生活時間を合わせよう

・家族とすごして楽しいときを考えよう，家族と一緒にしたいことを考えよう

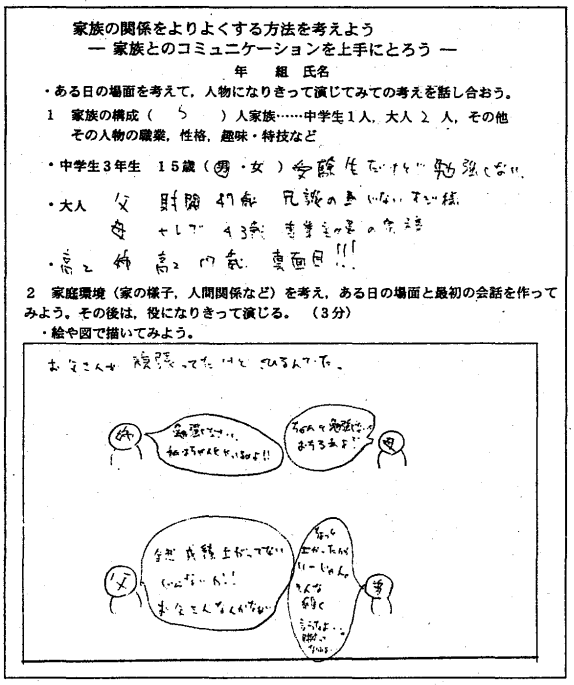
ウ 「家族とのコミュニケーションの場面を演じてみよ」（3分）（ロールプレイング）

―家族とのコミュニケーションを上手にとろう―〈グループ：解決したい内容で分かれる〉

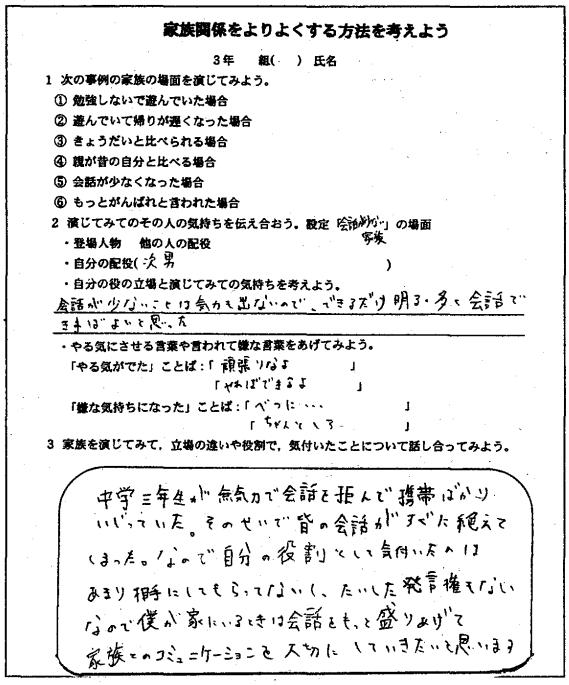
・ある日の場面：家族構成…人数 ，中学生１人，大人　 人，その他（兄弟姉妹，祖父母など）

・その人物の年齢，職業，性格，趣味・特技と配役，家庭環境（家庭の様子，人間関係など）

・最初の会話を考えて，その後はそれぞれの役になって演じる。


家族の関係をよりよくする方法を考えよう
― 家族とのコミュニケーションを上手にとろう ―
年　組　氏名
・ある日の場面を考えて，人物になりきって演じてみての考えを話し合おう。
1 家族の構成（ 5 ）人家族……中学生1人，大人 2 人，その他
その人物の職業，性格，趣味・特技など
・中学生3年生　15歳（男・女）受験生だけど勉強しない。
・大人　父　財閥 社長　兄弟の事しか考えない
母　専業主婦 3人　家事全般の家の管理
・高2 姉　高2 内気　真面目!!!
2 家庭環境（家の様子，人間関係など）を考え，ある日の場面と最初の会話を作ってみよう。その後は，役になりきって演じる。（3分）
・絵や図で描いてみよう。
お父さんは頑張ってたけど，ひるんでた。
父
勉強ってさ，姉ちゃんをやればよ!!
弟
弟くん，勉強だけがおちるまよ!
父
全然成績上がってないじゃないか!!
お父さんもくやしい
弟
なんで上がってないんだ〜じゃん
弟くん弱く
こうなったら，頑張ってみるか!

・ロールプレイングの場面設定記入例


家族関係をよりよくする方法を考えよう
3年　組（　）氏名
1 次の事例の家族の場面を演じてみよう。
① 勉強しないで遊んでいた場合
② 遊んでいて帰りが遅くなった場合
③ きょうだいと比べられる場合
④ 親が昔の自分と比べる場合
⑤ 会話が少なくなった場合
⑥ もっとがんばれと言われた場合
2 演じてみてのその人の気持ちを伝え合おう。設定 ⑤会話が少なくなった の場面
・登場人物　他の人の配役　母親
・自分の配役（次男　）
・自分の役の立場と演じてみての気持ちを考えよう。
会話が少なくなったことは気がつかないので，できるだけ明るく多く会話できればよいと思った
・やる気にさせる言葉や言われて嫌な言葉をあげてみよう。
「やる気がでた」ことば：「頑張りなよ」
「やればできるよ」
「嫌な気持ちになった」ことば：「べつに…」
「ちゃんとしろ」
3 家族を演じてみて，立場の違いや役割で，気付いたことについて話し合ってみよう。
中学三年生が無気力で会話を拒んで携帯ばかりいじっていた。そのせいで皆の会話がすべた絶えてしまった。なので自分の役割をいい気付いたのはあまり相手にしてもらってないし，たいした発言権もないなので僕が家にいるときは会話をもっと盛りあげて家族とのコミュニケーションを大切にしていきたいと思います

・グループでのロールプレイング後の記入例

（2）授業の考察

生徒の生活時間の見直しや家族とのコミュニケーションの内容・会話や場を考えさせることで，家族や他の人との協力が，生活の充実と向上につながることを実感させたいと考えた。家族の立場を思いやる気持ちや言葉かけの仕方がわかるように，具体的な場面で生徒同士のロールプレイングを通したコミュニケーション活動をさせた。これらの活動によって，生徒は，家族とのコミュニケーションの大切さを考える手がかりを得られたと思われる。

5　おわりに

本年度は，研究の２年次であるため，実践的・体験的な学習指導を工夫して「自ら学び・ともに学ぶ力」の育成をはかり，実践的な態度を育てようとコミュニケーションする力の活用を通して研究を進め改善・修正をしてきた。今後は，生徒の学習意欲と学習効果を高めるために具体的な指導方法の工夫し、コミュニケーションする力を活用する場を位置づけた年間指導計画の作成をして研究のまとめとしたい。

〈今後の課題〉

(1) 本教科の授業改善の手だてと評価

(2) 本教科の「自ら学び・ともに学ぶ力」を具体化した年間指導計画の作成

(3) 研究のまとめと今後の課題

[参考文献]

・文部科学省：「中学校学習指導要領（平成１０年１２月）解説―技術・家庭科編―」
東京書籍，平成１１年９月　平成１６年５月　一部補訂

・西岡加名恵：「教科と総合に活かすポートフォリオ評価」－新たな評価基準の創出に向けて－」
図書文化

・金子書房，黒沢幸子：「指導に役立つスクールカウンセリング・ワークブック」
２００２年９月発行

・森俊夫・黒沢幸子：「森・黒沢のワークショップで学ぶ解決志向ブリーフセラピー」
ほんの森出版，２００２年４月発行

・日本家庭科教育学会編：「衣食住・家族の学びのリニューアル―家庭科カリキュラム開発の視点―」
明治図書，２００４

・内藤　富久・二宮　紀治：「考えをまとめる技術」中経出版，１９９７年１２月発行